



拓北・あいの里地区社協ニ通信

拓北・あいの里地区社会福祉協議会

会長：渡邊 寛 広報部長：森下 満

この広報紙は赤い羽根共同募金の支援を受けています

No 82

令和 6年 2月 19日

**2月7日(水)に社協常任理事会が行われました。
各部の活動状況と今後の予定についてご報告します。**



コロナは第10波を迎え、呼吸器感染症の患者さんが急増しているようです。油断せず、気を付けましょう！

■ 総務部より ■

・福祉見守りボランティア研修会「認知症対応事例検討会」の結果

2月3日(土) 14:00~16:00、地区センター多目的ホールにて、標記の研修会を行いました。参加者は25町内会から53名、グループ討議のファシリテーター(司会進行役)としてケア施設町内会のメンバーなどから8名、北区社会福祉協議会等の支援機関から9名、スタッフ11名、合計81名。内容は、①認知症対応基礎研修、②認知症対応事例グループ討議、③とりまとめ報告、の構成で、参加された皆様の関心の高さがうかがえるフォーラムでした。

① **認知症基礎研修**：ケア施設町内会顧問の安藤裕啓から、認知症に関する基礎的な事柄についての話題提供がありました。「認知症の人」に対応する時には、認知症という病気と人という個人の両方を考えること、特にその人となりを知ることが大切である、また認知症の人を地域で当たり前のように受け入れる地域づくりには、「行動する傍観者」が必要である、といったお話が印象的でした。

② **認知症対応事例グループ討議**：1グループ5~6名、ファシリテーター1名からなる10のグループを設け、しゃべりすぎない、さえぎらない、批判しない、の3つをわきまえながら、認知症の事例とそれへの対応の体験談をもとに、自由な意見交換の「しゃべり場」が展開されました。

③ **とりまとめ報告**：3つのグループから討議の内容についての報告がありました。活動者として身近な相談先の情報が欲しいという声の他、認知症の人を包摂する地域づくり、まちづくりには普段からの隣近所との挨拶やつながりが重要であることが確認されました。

■ ふれあい交流部より ■

・ **2月6日(木)の「ひまわりクラブ」**は拓北・ひまわり会館に**5組12名の親子さん(子どもさん6名、親御さん6名)**が参加されました。コロナ禍の影響で、以前よりも参加者数が減少していましたが、久方ぶりに10名を超え、賑やかさが戻ってきました。**参加者の皆さんはスタッフ8名と共に自由遊び、絵本の読み聞かせ、などを楽しみました。**

次回は3月14日(木) 10:00~11:30、地区センター和室にて開催予定です。



2月3日の福祉見守りボランティア研修会「認知症対応事例検討会」の様子



認知症対応事例グループ討議後のとりまとめ報告の様子



5組・12名の親子さんたちが参加した、2月6日のひまわりクラブで、絵本の読み聞かせをしているところ



地区センター20名、オンライン2名、合計22名が参加した、1月16日の地域ケア部の例会

■ 地域ケア部より ■

1月例会は16日(火) 18:30~20:00、地区センター2階集会室にて、北海道医療大学大学院看護福祉学研究科(臨床看護学)講師の石角鈴華(いしずみ・れいか)さんをゲストに、「みんなで話そう。アフターコロナの過ごし方」をテーマに話題提供をいただき、意見交換を行いました。地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行われ、参加者は地区センター20名、オンライン2名、合計22名。

話題は以下の3点。一つ目は「5類感染症へ移行後、コロナはもう大丈夫?」。昨年5月8日(月)、コロナ(COVID-19)はそれまでの2類から5類へと移行した。感染症法による感染症分類では、感染力と重症度の高さにより1類から5類までの5つに分類され、1類が最も高く、順次低くなっていく。それに従い法的措置に関しては1類が最も厳しく、順次緩くなり、5類では最も緩く、感染者の定点把握、一部全数把握と流行の注意喚起にとどまる。その背景には、重症化率、死亡率がインフルエンザとほぼ変わらない(むしろ数値が少し低い)、というデータ(2022年12月21日時点)があった。しかし一方で、高齢の方、免疫低下の方、肺疾患や心脳血管性疾患をお持ちの方などは重症化リスクが高いこと、いくつかの後遺症(睡眠障害、筋力低下、呼吸困難感、他)が見られること、さらには感染力が強いこと等、人によって重症化リスクは異なり、絶対の「大丈夫」はない、といえる。

二つ目は「マスクはいつまですべき?」。まず、飛沫は2m先まで飛散する。コロナウイルスの侵入門戸は眼粘膜、鼻腔粘膜、口腔粘膜の3つがあり、マスクによって侵入門戸の鼻と口を守ることで、マスクによって拡散する飛沫を減らすこと、にマスク着用の意味・意義がある。人によって「大丈夫、の感覚」はちがうので、マスク着用の有無も人によってちがう。マスク着用を含む感染対策は、感染リスクと暮らしの質(QOL)との兼ね合いとして、リスクマネジメントとして捉える必要がある。

三つ目は「今後も新しい感染症でパンデミックが起きる?」。感染症パンデミックの歴史を紐解くと、記録に残っているものでは、14世紀のペスト(全世界人口の2億人が死亡)、15世紀の天然痘、17世紀及び19世紀のペスト、19~20世紀のコレラ、20世紀のスペイン風邪、HIV/AIDS、他、今世紀のSARS、MERS、エボラ出血熱、そしてコロナと続いている。こういった歴史は繰り返されるので、今後も新しい感染症パンデミックが起きる可能性が高い。一方で、ハンセン病の人権侵害、HIV/AIDS、同性愛者への差別、偏見といった問題が起こったが、こういう社会的な問題を繰り返してはならない。

講演後、会場参加者との間でいくつかの質疑応答が行われたが、特に事務局の長谷川から、感染症を医学の側面からだけでなく、歴史、文化、社会、政治の多方面から検討し、理解することが必要である、との指摘があった。

◇ 2月例会および3月例会のご案内 ◇

2月例会は20日(火) 18:30~20:00、札幌新生キリスト教会牧師の田中満矢さん、カフェオーリーブ店主の三浦皇主郎さんをゲストに、「ほくほく子ども食堂・子ども弁当」をテーマに、また、3月例会は19日(火) 18:30~20:00、小規模多機能型居宅介護春の歌、計画作成担当の鬼塚亜美さんをゲストに「小規模多機能ってなんですか?」をテーマに、いずれも地区センター2階集会室にて、話題提供をいただき、意見交換を行う予定です。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行います。来場できないがオンラインで参加の方にはZoomアクセス情報をお知らせします。その他の方はケア施設町内会事務局・長谷川までメール hasepy55@gmail.com でお問合せ下さい。

